

平成29年度 学校評価報告書

1 本年度の重点目標

1 <学習指導>	・基礎・基本の定着と、授業の質の向上による学力の向上を図る。 ・自学・自習の学習態度を養い、家庭学習習慣の確立と家庭学習内容の充実を図る。
2 <生徒指導>	・基本的な生活習慣の確立と、他を思いやる心、協力奉仕の精神を育む教育を推進し、共生社会に生きる生徒の資質を高める。 ・規範意識の醸成に努め、事故や盗難等のない安全安心な学校づくりに努める。 ・挨拶や端正な制服の着用、交通ルール遵守等、地域社会から評価される態度と整容を身に付けさせる。 ・部活動、学校行事、生徒会活動等へ積極的に取り組ませる。
3 <進路指導>	・面談等を通して生徒の自己理解を深めさせ、在り方生き方教育としての「志教育」を推進する。 ・生徒の自己実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の一層の推進に努めるとともに、進路に関する研修の機会を設ける。 ・国公立大学や難関私大等に現役合格できる柔軟な頭脳と強い意志を養う。
4 <保健衛生・安全教育・防災教育>	・生徒の心身の健康保持と体力増進を図る。 ・交通安全の意識高揚(特に自転車通学生)を図り、事故の未然防止に努める。 ・防災教育を通して日常の安全点検や避難訓練の充実を図り、地域社会と連携して危機的状況にも対応できる学校を目指す。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

自己評価結果・自己評価の適切さ

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

改善策の適切さ

A 適切である B おおよそ適切である C あまり適切ではない D 適切でない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	取組および改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 基礎・基本の定着	B	授業時数の確保に加え、朝学習などの習慣化により基礎・基本の定着に努めた。3学年では目標が明確なため学習への意欲は高いが、1、2学年については不十分な面があるので、面談や授業での働きかけを継続していく。	B	B
	② 家庭学習習慣の確立	B	週間課題や朝学習を習慣化することで、家庭における学習習慣確立を図った。教科が主体となって取り組んだが、学習習慣の確立にまでは至らない面があるので、動機付けとして面接等により進路意識を高める。	B	B
	③ 教職員のスキルの向上	B	授業力向上のための外部機関を利用した授業研究会や特別支援教育に関する研修に多くの教員が参加することで生徒への対応力の養成につながった。今後も多様な研修会に参加するとともに、研修者が他の教員への伝達を実施することで学校全体の対応力向上につなげる。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって取り組みが違うのであれば、適切な課題の分量を見極めるなどして、全学年共通で行う。 ・生徒への働きかけとして、面談を活用し適切にやって欲しい。 ・授業を積極的に公開することで、教員の授業力向上につながるのではないかな。 ・研修については教員複数で参加することで、実効性が増す。 ・2020年度から始まる「大学入学共通テスト」への対策も怠りなくやってほしい。 			
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立	B	挨拶、制服の着こなしや時間を守るなど当たり前のことを言い続けることで基本的な生活習慣の確立を図った。一定の成果が見られるので今後も継続していく。	B	B
	② 規範意識の醸成	B	特別指導件数は昨年並みであるが、内容が多様化している。観察や面接により注意深く見守る必要がある。自転車による事故は多くなり、マナーについても外部から指摘を受けており、次年度は全校の講習会を計画している。	B	A
	③ 特別活動への積極的な取組	A	今年度はインターハイと総文祭が本県で開催されたこともあり、例年より活動的な年となった。弓道部の優勝に刺激を受け、来年度の総文祭には3つの部が出場を決めた。生徒や職員の健康管理に気を付けて指導に取り組む。	A	B

学校関係者評価委員会 における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・SNSのトラブルが多くなっているため、情報モラル教育の推進にも力を入れて欲しい。 ・特別活動の活性化に加え、生徒や教員の健康管理に気を付け、適切な休養日を入れて欲しい。 			
進路指導	① 自己理解と志教育の推進	B	担任を中心に面接を細やかに行うことで生徒の自己理解を促した。社会人講話の実施やオープンキャンパスへの参加により進路意識の昂揚につながった。今後はその意識を行動に繋げる方策が必要である。	B	B
	② 組織的な指導と研修の充実	B	業務の優先順位を明確化した上で、他学年の進路指導にも関わることで系統的な指導につながり、部内での情報共有が可能となった。社会が求める人材や高大連携についての研修を実施し、教員の意識変革にも努めた。最新の動向に目を向けながら、研修に努める。	B	B
	③ 進路実現に向けた粘り強い指導	B	担任団が統一の方針で、きめ細かな面談を実施することにより、安易に流れがちな生徒に対して目標への意欲を喚起し、進路実現につなげようとした。それにより最後まで頑張った生徒も増えてきた。今後も継続して指導していく。	B	B
学校関係者評価委員会 における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望を諦めさせない指導に徹してほしい。 ・在仙大学との連携をもっと積極的に考えてはどうか。 ・先輩の体験を聞くことで、自分自身の刺激となるので、卒業生から体験談を話してもらったり、卒業生へのアンケートを実施してたくさんの意見を集約して生徒への刺激とする。 ・生徒自らが学校のことを外部に発信することで学校への意識が変わり、やる気につながるのではないか。 			
保健・安全・防災	① 生徒の健康保持と体力増進	B	保健講話などは専門的であったがわかりやすく生徒の感想も良好であった。生徒発行による『保健だより』を定期的に発行し、健康管理の意識付けができた。今後も継続していく。	B	B
	② 学校環境の整備と美化	B	生徒の清掃時間を多く取り、また技師が毎日の清掃を念入りにしたことで美化の意識が浸透しつつある。まだ徹底されていない面もあるので工夫していきたい。扇風機を拡充することで環境整備にも努めたが、暖房機の不具合により不便をかけた。常に状況を把握して早急な対応に心がける。	B	B
	③ 防災教育と避難訓練の充実	B	Jアラートへの対応も含め、より実践的な防災訓練を実施することができた。台風等へのメール対応の迅速化などの工夫が必要である。	B	B
学校関係者評価委員会 における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・校舎が隅々まできれいなことはとても大事なことであるので、生徒への生活の基本としてしっかり指導してほしい。 ・学校の予算には限りがあるので、お金のかからない取り組みを考える。 			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題		改善方策
①	進路意識の昂揚と進路実現	講演会などをおして進路意識の昂揚を図るとともに、本校卒業生の体験談やデータを示すことで進路実現への手立てを具現化させる。
②	規範意識の醸成	生徒の実態に踏まえた講演会や講習会を実施することで、生徒の意識変革に努め、さらに細かな面談を実施することで規範意識の醸成を図る。
③	家庭における学習習慣の確立	三か年を見越した統一的、かつ、教科と連携し学年進行に即した取り組みを行うことで自宅における学習習慣の確立を図る。